

令和6年度

全国学力・学習状況調査結果の概要

調査実施期日

令和6年4月18日（木）

対象及び教科

小学校6学年全児童 国語、算数

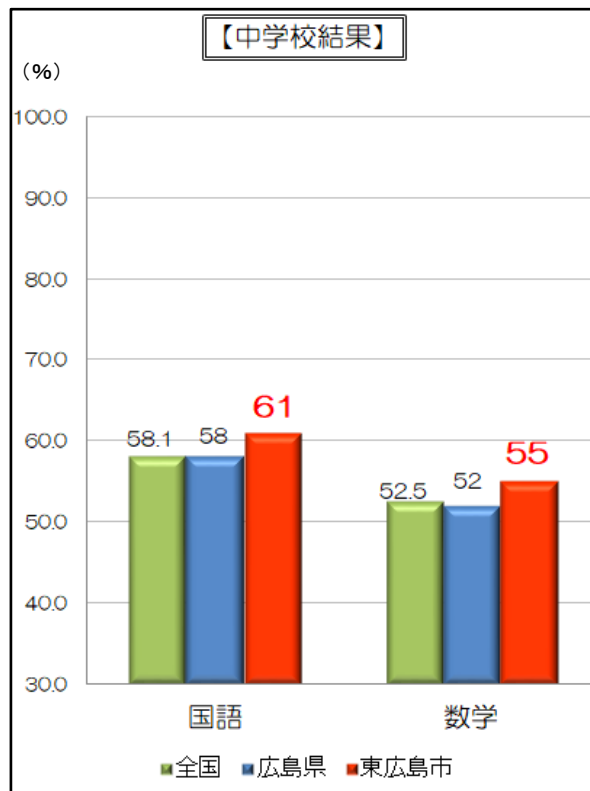
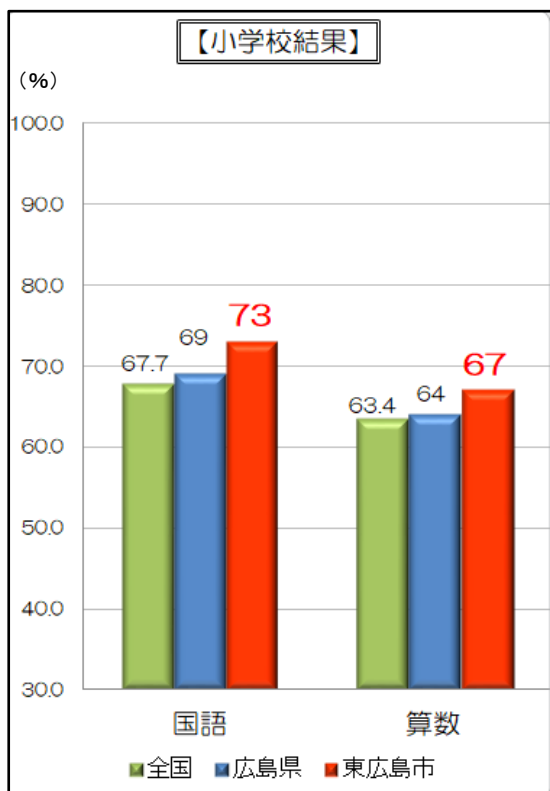
中学校3年生全生徒 国語、数学

教科に関する調査の結果（平均正答率）

校種	教科	東広島市	全国（公立）	広島県（公立）
小学校	国語	73	67.7	69
	算数	67	63.4	64
中学校	国語	61	58.1	58
	数学	55	52.5	52

○小学校は、国語及び算数において、平均正答率が全国、広島県を上回っている。

○中学校は、国語及び数学において、平均正答率が全国、広島県を上回っている。



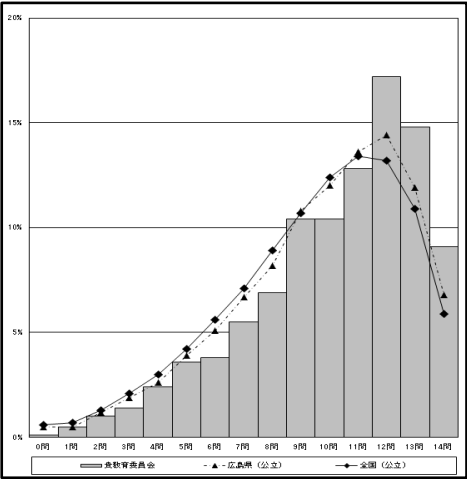
教科に関する調査結果

1 小学校 国語

結果の概要

平均正答率が73%で、全ての内容において全国平均、広島県平均より高い。

＜正答率分布グラフ＞



＜内容別平均正答率＞

学習指導要領の内容	平均正答率（％）		
	東広島市	全国（公立）	広島県（公立）
全体	73	67.7	69
言葉の特徴や使い方に関する事項	70.4	64.4	65.9
情報の扱い方に関する事項	89.0	86.9	88.0
我が国の言語文化に関する事項	82.2	74.6	76.3
A 話すこと・聞くこと	62.9	59.8	61.3
B 書くこと	73.2	68.4	70.5
C 読むこと	76.2	70.7	72.6

正答率下位2問

- I 漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題
※「競技」を漢字で書く問題
(設問 2三ア) 52.4% (全国43.4% 県44.7%)
- II 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題
(設問 1二(2)) 53.1% (全国52.9% 県54.1%)

授業改善のための方策

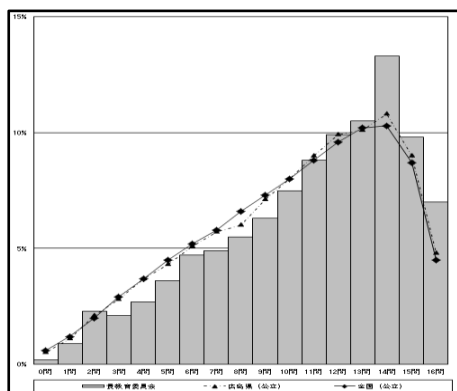
- 漢字を文の中で正しく使うことについては、日常的に文や文章の中で適切に使うことができるように指導する。平仮名で書かれた文章を学習した漢字を用いて書き直すなどの活動を取り入れ、習得した漢字を読んだり書いたりする機会を意図的・計画的に設定する。また、辞典利用についても意図的・計画的に指導し、語彙を広げる。
- 実際にやりとりをする場面で表現を工夫するためには、相手や目的を意識することが求められる。例えば、デジタル機器を活用し、やりとりの場면을録画・録音し、振り返る学習活動を行い、自分が作成し、使用した資料が有用であったかなど、自分の考えや意見を相手に伝えるための工夫を具体的に考えることができるように指導する。

2 小学校 算数

結果の概要

平均正答率が67%で、全ての領域において全国平均、広島県平均より高い。

<正答率分布グラフ>



<領域別平均正答率>

学習指導要領の領域	平均正答率（％）		
	東広島市	全国（公立）	広島県（公立）
全体	67	63.4	64
A 数と計算	69.8	66.0	66.6
B 図形	71.7	66.3	67.5
C 変化と関係	53.6	51.7	50.8
D データの活用	66.3	61.8	63.0

正答率下位2問

I 道のりが等しい場合の速さについて、時間をもとに判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題

（設問 4（3））32.9%（全国31.0% 県30.4%）

II 球の直径の長さとは立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問題

（設問 3（3））45.4%（全国36.5% 県37.6%）

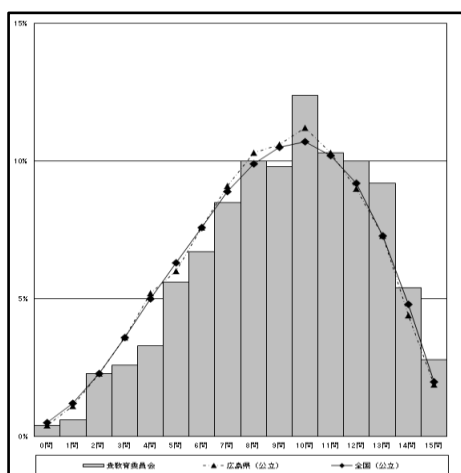
授業改善のための方策

- 異種の二つの量の割合として捉えられる量を比べることの意味を理解するため、表にまとめたり、デジタル機器上で操作したりしながら比べ、考えた結果を言葉で分かりやすく表現する機会を設定する。例えば、速さが一定の場合には道のりと時間が比例関係にあることに気付いたり、単位量当たりの大きさが平均の考えなどを前提にしていることに気付いたりすることができるように指導する。
- 球の直径の長さとは立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す力を養う。そのために、図形を構成する要素に着目し、図形の展開図の一辺の長さと球の直径の長さを確かめたり、デジタル機器を活用し球の直径の長さと箱の一辺の長さが同じであることを視覚的に捉えたりする学習展開の工夫が必要である。

結果の概要

平均正答率が61%で、全ての内容において広島県平均、全国平均より高い。

<正答率分布グラフ>



<内容別平均正答率>

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)		
	東広島市	全国(公立)	広島県(公立)
全体	61	58.1	58
言葉の特徴や使い方に関する事項	60.6	59.2	58.0
情報の扱い方に関する事項	61.4	59.6	59.2
我が国の言語文化に関する事項	84.3	75.6	77.8
A 話すこと・聞くこと	61.1	58.8	59.4
B 書くこと	69.6	65.3	66.1
C 読むこと	51.7	47.9	47.5

正答率下位2問

I 文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる問題

(設問 2一) 42.4% (全国36.3% 県35.3%)

II 目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる問題

(設問 2四) 44.3% (全国42.6% 県42.4%)

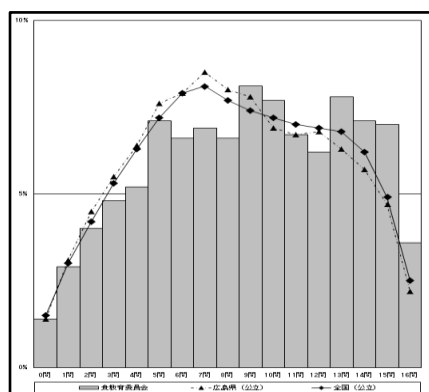
授業改善のための方策

- パンフレットや雑誌の記事など実生活の中にあるものを教材として取り上げ、文脈を踏まえた上で図表などがもつ役割について考える学習活動を設定する。その際、図表などが文章中にある場合とない場合とを比較し、図表などが示されていることによって何がどのように分かりやすくなるのかを説明し合い、筆者が図表などを用いた意図を考えるように指導する。
- 目的や伝える相手を明確にして、実生活で目にする文章の内容を要約して伝える学習活動を設定する。その際、目的に応じて必要な情報を適切に取り出してまとめられているか、自分の言葉を用いてまとめた部分と文章の内容に隔たりがないかなどを確認しながら、適切さや正確さを意識して要約することができるように指導する。

結果の概要

平均正答率が55%で、全ての領域において全国平均、広島県平均より高い。

<正答率分布グラフ>



<領域別平均正答率>

学習指導要領の領域	平均正答率 (%)		
	東広島市	全国(公立)	広島県(公立)
全体	55	52.5	52
A 数と計算	53.7	51.1	49.4
B 図形	41.9	40.3	39.3
C 関数	64.3	60.7	60.1
D データの活用	58.5	55.5	55.0

正答率下位2問

I 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題

(設問 8 (2)) 23.8% (全国17.1% 県17.4%)

II 筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる問題

(設問 9 (1)) 27.2% (全国25.8% 県25.0%)

授業改善のための方策

- デジタル機器を活用して、表・式・グラフをまとめて簡単に表示し、それぞれの関係に関連づけて理解させるために、値やグラフを変化させた際に、伴って変わる部分を視覚的に提示する。また、問題解決において、問題解決の方法に焦点を当て、何をどのように用いればよいかといった「用いるもの」と「用い方」を確認し、表、式、グラフの「用い方」について説明する場面を設定し、数学的な表現を用いて説明できるように指導する。
- ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する際、仮定と結論を確認し、証明に用いた前提や根拠を整理するなどして、図形の性質を論理的に考察し表現する学習活動を設定する。また、ペアやグループで証明を聞き合ったり指摘し合ったりして、思考過程を整理する場面を設定する。